

か い ぎ し よ

9 Sep.
2022/No.740



4p トップの部屋
洋裁教育の黎明期から90年
日本の学びをアジアに広める
米山ファッション・ビジネス専門学校 校長 米山実氏

2p 第29期3号議員決まる

20p 会議所情報

29p テナント募集 川崎商工会議所最上階

36p 音楽情報 ミューザ川崎シンフォニーホール&東京交響楽団 名曲全集 第179回
9月25日(日)ほか

37p シネマ情報 「人質 韓国トップスター誘拐事件」9月9日(金)公開



KAWASAKI

トップの部屋

第92話



洋裁教育の黎明期から90年 日本の学びをアジアに広める

米山実氏

(Minoru Yoneyama)

米山ファッション・ビジネス専門学校 校長

和装から洋装へ移りゆく時代、いち早く最先端の洋裁技術を取り入れ、黎明期の洋裁教育を担った歴史ある洋裁学校を受け継ぎ、現在はアジア各国から多くの留学生を受け入れる。戦後の衣料不足への対応から定番の花嫁修業へ、そして日本への憧れの象徴へ“洋裁”の持つ社会的な意義が大きく変わる中、進化を続けるデザインや縫製技術だけでなく、最先端のIT技術を含むファッション・ビジネス分野へ学びの裾野を広げ、ファッションを通じ、企業活動に貢献できる人材を育成する。

洋裁の技術を伝えて90年

—創立90周年おめでとうございます。学校創設の経緯を教えてください。

米山 始まりは私の母・芳子が、1932年に川崎大師の近くの実家で始めた洋裁和裁塾で、そこから数えて90周年。母方の祖母も和裁塾を開いていたので、裁縫教育の歴史はそれ以上となります。

—母娘2代で裁縫を教えられたのですね。

米山 母の生家は荒金家。そこに嫁いだ祖母のサダは桜井家の出で、どちらも大師の旧家です。荒金家は戦国武将の末裔、桜井家は豪農で江戸時代には寺子屋を開いていたそうです。大師の旧家には東京の西園寺家に奉公して礼儀作法を学ぶ慣わしがあり、祖母は西園寺家の計らいで和裁塾に通わせてもらいました。

—維新の元老・西園寺公望と関係があったのでしょうか。

米山 その西園寺家です。おかげで祖母は近所の娘さんたちに和裁を教えるようになりました。その娘の芳子は大師家政女学校（現・川崎市立幸高等学校）で和裁を習ううちに洋裁に興味を持ち、米国のシンガーミシンが設立したシンガー裁縫院で米国人教師から洋裁を学びました。その後、シンガーミシンの神奈川分店に採用され、ミシンを購入した家庭を訪ねて教える訪問講師を務め、自宅でも和裁・洋裁を教えるようになりました。

—和服と洋服は似て非なるもの。和裁と洋裁の二刀流ですね。米山 芳子が洋裁・和裁塾を始めた“1932年”は女性に洋服が普及した契機のひとつといわれる「白木屋の大火」が起きた年。女学校の教科書に洋裁が取り入れられ、洋服は女子学生や職業婦人の制服にも採用されていきました。学校法人文化学園（傘下に文化学園大学・文化服装学院など）のルーツもこの時代のシンガー裁縫院にあるそうです。

洋裁ブーム到来で

—その後の学校のあゆみを教えてください。

米山 私の父は新潟県出身で、都内の和菓子屋に奉公に出たものの、川崎のいすゞ自動車の工場に勤労働員され、母の実家の桜井家に下宿することになりました。その人柄を見込んだ母方の祖父の勧めで結婚したそうです。

ところが太平洋戦争末期、川崎は大空襲で一面の焼け野原。そこで1948年、利便性のよい現在地（川崎区南町）に移り、父は「紅屋」という和菓子屋を開き、母は洋裁を教え始めました。ところが父は、1954年に結核で亡くなってしまいました。

—せっかく再出発されたのに…。

米山 戦後は衣料が不足し、どの家庭でも焼け残った衣服を仕立て直して自給自足するしかありませんでした。そのため、1956年に神奈川県認可を得て「米山服装学院」となった前後から生徒が増え、学校経営は軌道に乗りました。いわゆる「各種学校」です。学歴を問わず入学

でき、短期間で実用的な技術が身に付けられる点が時代のニーズに合ったのでしょう。洋裁学校を舞台とした映画やラジオドラマもたくさん作られました。



1954年5月 米山洋裁女学院卒業式にて

—洋裁を習う人が多かったのですね。

米山 最初は必要に迫られて習う人が多かったのですが、次第に花嫁修業のひとつとなり勤め帰りのOLが殺到、洋裁学校の卒業生は年間50万人を超えるといわれました。洋裁学校の数も増え、各種学校の時代には川崎市内に18校程の洋裁学校があったと思います。その後、学校教育法が改正され、1976年に専修学校「米山服装専門学校」と改称した頃には生徒数は半減。ファッション性の高い既製服が安価に手に入るようになり、女性の大学進学率が上がったことも影響したと思います。乱立気味だった学校も淘汰され、現在、川崎市内に残るファッション系の専門学校は当校1校のみとなってしまいました。

—ところで、各種学校、専修学校、専門学校はどう違うのですか。米山 現在の幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・短期大学・大学以外の学校はすべて「各種学校」として扱われていましたが、1976年に専修学校制度が創設され、専修学校の中に専門課程が置かれました。そのため専修学校のうち、高卒以上が対象の専門課程を「専門学校」、中卒以上が対象の高等課程を「高等専修学校」、入学資格不問の一般課程を「一般専修学校」と呼び分けています。そして一定の要件を満たす修了者に大学に編入できる「専門士」、4年制課程の修了者に大学院に進学できる「高等専門士」の称号を付与できることが、専門学校の特徴のひとつとなっています。

留 学生の受け入れ

—生徒数が激減された際はどんな対策をとられたのですか。米山 書道教室を開いたり、学習塾を開いたり。長年続けてきた書道や大学で取得した教員資格が役立ちましたが、そうこうしているうちに「外国人留学生」という“神風”が吹き、1989年度から受け入れを始めました。1991年の新校舎の完成に合わせ、校名を「米山ファッション・ビジネス専門学校」に変更しました。

裁縫技術だけでなく、ファッション・ビジネス界で求められるスキルを幅広く学べるよう、パソコンやアパレルCADを取り入れたカリキュラムに刷新し、1995年には3年制、4年制の

専門課程の認可を受けました（現在は2年制・4年制のみ）。

—日本でファッションを学びたいという留学生は多いのですか。

米山 当初は中国が中心でしたが、台湾、韓国などの生徒も増えたため、監督庁である神奈川県での認可を得て定員を500人（現在は480人）に増やしました。卒業生のほとんどが日本での就職や進学を希望しますが、近隣の関連企業といえば手芸材料大手のユザワヤくらい。神奈川県にはアパレル企業が少なく、求人があるのは岐阜県や群馬県などで、就職支援の難しさは感じています。卒業生や在校生の口コミ評価に加え、女子校であることも保護者にとっては安心材料らしく、毎年多くの学生を確保できていましたが、2011年の東日本大震災で、多くが帰国してしまいました。

—一定着していたビジネスモデルが崩れてしまった…。

米山 全国の専門学校、専修学校が生徒の激減に直面したと思いますが、動きが速かったのが日本語学校。彼らがベトナム、ネパールなどの学生を掘り起こし、当校にもアジア各地から生徒が集まるようになりました。中国、韓国、台湾の学生も次第に戻る中、秋入学課程や夜間部を設置して、学ぶスタイルの多様化も進めてきました。それなのに今度はコロナ禍です。

—留学生のほとんどはアルバイトで生計を立てているため、学費を滞納したり、家賃が払えなくなったり、帰国したきり来日できなくな

ったり。新入生は例年200人前後ですが、去年は70人で、今年は8人。また感染者数が急増していることが気がかりです。

—何か公的な支援は受けられないのですか。

米山 専門学校は文部科学省の助成金の対象外ですが、県からは少々の補助金を頂いています。実は各種学校の中に、より高度な教育機関として専門学校を位置づける際、予算不足を理由に渋る当時の文部省や大蔵省との折衝で、専門学校の関係者は「補助金はいらぬから認めて欲しい」と大見得を切ってしまった（笑）。それが尾を引いています。



2022年7月 研修を兼ねたバス旅行にて

90周年記念イベントを成長への契機に

—90周年を迎えますが何かイベントはお考えですか？

米山 東海道かわさき宿交流館を会場として、12月20日から3日間、生徒が自作を着る「ファッションショー」や生徒に和服を着てもらって「きものショー」を開催します。以前から一般社団法人神奈川県日中友好協会の協力を得てい

ますが、昨年度は中止になってしまったので、今年はぜひ開催したい。生徒たちもとても楽しみにしています。



2019年度 きものショーにて

—先ほど話に出た学習塾や書道教室はどうなっていますか。米山 私自身が主宰する「心雅書道会」は土曜日の午後に今も続けています。学習塾は大手の進出を機に閉鎖しましたが、再開したい気持ちもあるので「休校中」。看板も残しています（笑）。

厚生労働省や神奈川県商工労働部の職業訓練委託校、総務省・川崎市IT講習会委託校になっているほか、川崎市教育委員会連携事業として生涯学習講座も開設しています。

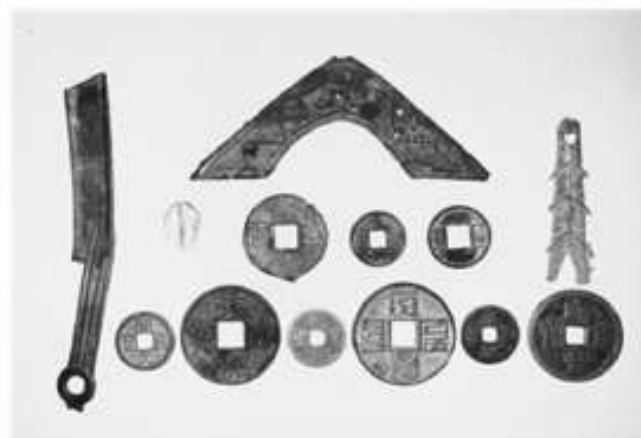
—いろいろな学びの場を提供されているんですね。

米山 歴史が好きで、大学では西洋史を専攻し、歴史の研究者になるのが夢でした。その夢は叶いませんでしたが、京都大学や一橋大学に聴講生として通ったこともあります。川崎区文化協会の会長を務めた際は、思い思いに“文化”を楽しむ皆さんの姿を間近に見て、学ぶ大切さを再認識しました。

和裁・洋裁教育のエキスパートとして多方面からその功績を評価して頂いた母の芳子と違い、私には洋裁の知識はありませんが、今後もできるだけ多くの人に「学ぶ機会」を提供していきたいと思います。

—最後に趣味を教えてください。

米山 子供の頃から古銭を集めていて、刀の形をした中国の刀幣（刀貨・刀銭）や太平天国時代の貨幣など、珍しいものも持っています。ちゃんと整理していつか展示会を開きたい。この「夢」はぜひ叶えたいです。



殷・周から明・清までの中国銭のコレクション



米山ファッション・ビジネス専門学校

川崎市川崎区南町15-2

電話 044-233-0025

profile

米山 実氏 (よねやま・みのる)

1945年川崎市川崎区生まれ

1969年横浜国立大学 卒業

米山服装学院 (現米山ファッション・
ビジネス専門学校) 勤務

1997年同校校長 就任

2013年服飾教育功労賞 受賞

2015年一般社団法人神奈川県専修学校各種
学校協会理事川崎支部長 就任

2016年川崎東ライオンズクラブ会長 就任

2017年ライオンズクラブ ゾーンチェアパー
ソン 就任